

樹神義和



発行元：樹神義和事務所

〒473-0935 豊田市大島町前畑1-1

TEL：0565-52-7876 FAX：0565-52-7928

URL：http://www.kotama.net/

誰もが魅力を実感できる“愛知”を目指して!!

感染拡大防止を図りつつ 社会経済活動の回復へ!!

新型コロナウイルス感染症の脅威が1年半以上も続いておりますが、供給体制に不安は残るものの、感染防止の切り札となるワクチン接種が現役世代においても始まっており、希望者全員が早期に接種できる事を期待しております。

また、コロナ禍において皆様の生活は大きく変化したと思いますが、ウイルスの封じ込めによって全てが感染拡大前に戻るとはとても思えません。従って、この難局を乗り越えた新たな時代に相応しい社会を目指して取り組んでまいりますので、引き続きのご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。



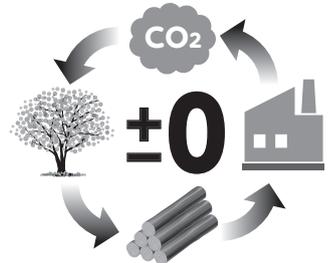
愛知県政トピックス①

「あいちカーボンニュートラル戦略会議」が設置されました。

集中豪雨・森林火災・大雪など、世界各地で異常気象が発生する中、脱炭素化は待ったなしの課題であり、同時に気候変動への対応は、我が国経済を力強く成長させる原動力になります。

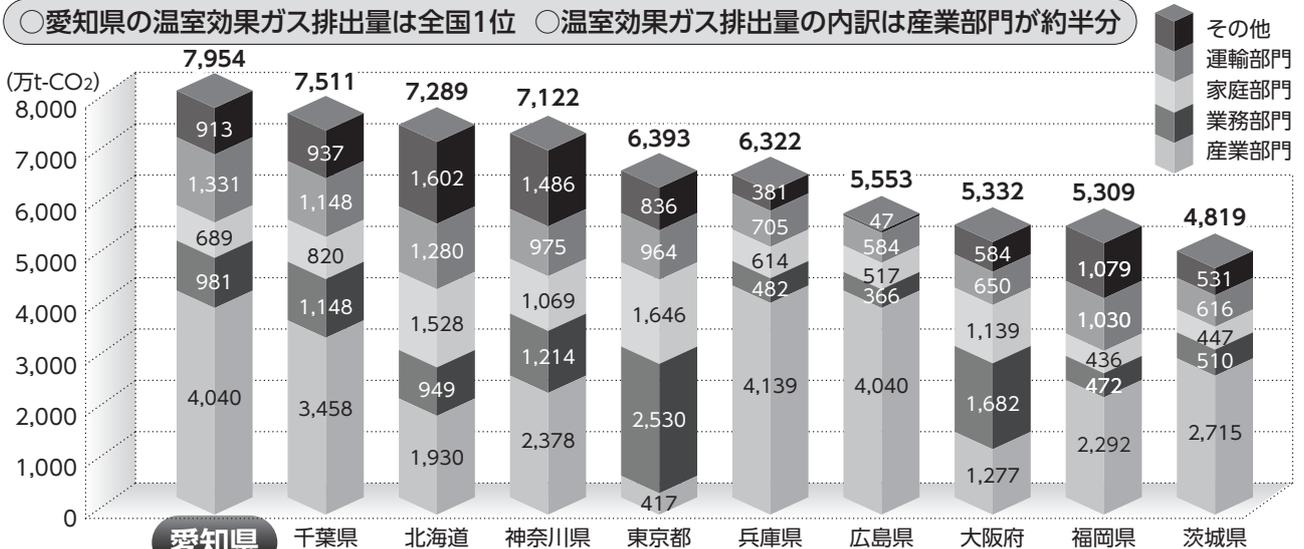
こうした背景のもと、日本政府は昨年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表し、2050年までに脱炭素社会を実現し、温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目標としています。

また、愛知県においても「あいち地球温暖化防止戦略2030」に基づく取り組みに加え、新たに戦略会議を設置してカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを検討し、本県の温室効果ガス排出量の削減に資する具体的なプロジェクトの創出を目指す事としておりますので、今後は戦略会議の活動内容をチェック・フォローし、議会での提言活動に繋げてまいります。



温室効果ガス排出量(上位10都道府県比較)

○愛知県の温室効果ガス排出量は全国1位 ○温室効果ガス排出量の内訳は産業部門が約半分



出典：各自治体の公表資料から抜粋(愛知県は2018年度数値)

令和3年4・5・6・7月臨時議会&6月定例議会 愛知の更なる飛躍に向けて、新型コロナウイルス感染症の克服へ

議案

4月・5月にそれぞれ2回と6月・7月にそれぞれ1回の計6回の臨時議会を開催するとともに、6月17日から7月6日までの会期で定例議会も開催され、新型コロナウイルス感染症緊急対策を含む「一般会計補正予算案」を中心に審議し、全ての議案を可決承認しました。

主な議案

新型コロナウイルス感染症緊急対策(予算)について

新型コロナウイルス感染症の克服に向けて、引き続きオール愛知で一丸となって取り組みを進めるため、ワクチン大規模接種会場の整備や感染防止対策協力金をはじめとして、生活困窮者支援や中小企業支援など、前年度から切れ目なく対策が行えるよう、令和3年度に入って総額4,786億円(令和3年度当初予算1,311億円を含む)を可決しました。

なお、感染の急増や経済の急変に対応し、臨時・緊急に実施すべき対策については、状況に応じて今後も機動的に対応してまいります。

補正予算の3つの柱

1 感染拡大防止や医療面での対策

感染拡大防止に向けた施策や医療提供体制の更なる強化のための取り組みを実施

- ワクチン大規模集団接種会場運営費
- 愛知県感染防止対策協力金
- 飲食店等感染防止対策促進事業費 等



2 県民生活への対策

県民生活への影響を最小限に抑えるため、様々な側面から対策を実施

- 生活福祉資金貸付事業費補助金
- 生活困窮者自立支援金支給費
- 修学旅行取消料支援事業費 等



3 経済対策

企業等の経済活動への影響を最小限に抑えるとともに、経済活動の回復や強靱な経済構造の構築に対する支援策を展開

- 愛知県中小企業者等応援金
- 中小企業テレワーク導入支援事業費
- 観光消費喚起事業費 等



(参考) 新型コロナウイルス感染症対策予算額

		予算額
令和元年度		20億円
令和2年度		4,519億円
令和3年度	当初予算	1,311億円
	4月補正①	59億円
	4月補正②	548億円
	5月補正①	651億円
	5月補正②	200億円
	6月補正①	749億円
	6月補正②	553億円
	6月補正③	114億円
7月補正	601億円	
合計		9,325億円

代表質問

6月定例議会では自由民主党・新政あいちの2会派が代表質問を行い、新政あいち県議団からは総務会長の河合洋介議員(知多郡第一選挙区選出・3期)が登壇し、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ直面する県政諸課題について質問を行いました。

主な質問

新型コロナウイルス感染症対策に従事する医療従事者確保について

Q 大規模集団接種会場に必要な医療従事者は十分に確保できているのか。また、大規模集団接種会場の長期化を想定した場合、医療従事者の確保に向け県はどのように取り組んでいくのか?

大村知事 答弁 本県が5月に開設した2ヶ所の大規模集団接種会場では、合わせて1日3千人の規模でワクチン接種を進めており、医療従事者の確保については県内主要病院のほか、看護協会・歯科医師会にも協力いただき、非常に充実した接種体制を確保することができている。

こうした取り組みにより、1回目の接種を終えた本県の高齢者の接種率は6月19日時点で55.50%と、人口上位10都道府県の中でトップと順調に進んでいるが、次に続く64歳以下の接種を見据えると、まだまだ長丁場となる。

従って、名古屋市内と三河地域に開設する新たな5ヶ所の大規模集団接種会場では、更なる医療従事者の確保が必要となることから、大学病院・厚生連の県内8ヶ所の病院、民間の医療人材派遣会社等の協力を得ながら接種体制を整備していく。



答弁する大村知事

委員会

今年度は「建設委員会」と「人づくり・福祉対策特別委員会」に所属する事となり、6月定例議会の「建設委員会」では、国においては5月末に第2次「交通政策基本計画」が閣議決定された事を受け、本県の公共交通施策について質問を行いました。

公共交通施策に関する質問のねらい

現在、我が国の交通政策は大きな岐路に立たされており、大都市部では交通サービスが多様化し、利便性の向上が図られる一方、地方部では人口減少等を背景として、交通サービスの維持・確保が困難となる地域が増加している。

また、直近では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い利用者は激減しており、更にテレワーク等の新しい生活様式が社会に定着する事により、感染拡大以前の交通需要には戻らない可能性も予測されている事から、公共交通の維持・充実に向けて質問・提言を行う。



建設委員会の開催風景

主な質問①

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う公共交通への影響について

Q 少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の拡大により、交通事業者はかなり厳しい経営実態にあると思われるが、公共交通の輸送人員は現状どのように推移しているのか?

都市・交通局 答弁 ここ数年の本県における公共交通の輸送人員は、堅調な通勤・通学需要や観光需要等を背景に、鉄道、乗合バスについては微増傾向にある一方、タクシーについては運転手不足に伴う車両数の削減等を背景に減少傾向で推移していたが、新型コロナウイルスの影響を受けた昨年度の輸送人員を見ると、鉄道で前年度と比較して約6割~7割程度の輸送人員となっており、乗合バス・タクシーは運輸収入ベースで約5割~7割程度となっている。

また、ポストコロナ時代においても通勤や移動のあり方の変容などにより、以前の水準まで需要が回復することは期待できないとの声もあがっており、交通事業者の収益が悪化し投資余力も減退する中で、いかにして中長期にわたって地域公共交通を確保・維持していくかが喫緊かつ最大の課題であると認識しており、引き続き事業者への経費補助や観光・ビジネスの交流促進に資する交通ネットワークの充実などを推進していく。

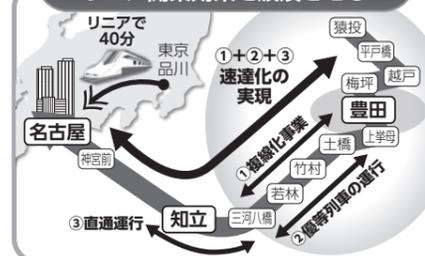


主な質問②

リニア中央新幹線開業に向けた公共交通の利便性向上について

Q 2027年度のリニア中央新幹線開業に向け、現行の「あいち公共交通ビジョン」では名古屋駅の乗継利便性向上や名古屋駅~豊田市駅の速達化を掲げているが、現在の進捗状況は?

速達化の実現により、豊田市全域にリニア開業効果を波及させる



都市・交通局 答弁 名古屋駅は国内有数のターミナル駅であるが、乗換が判り難い駅とも言われており、誰もがスムーズでスピーディーに乗換可能となるよう、名古屋市などと連携して「スーパーターミナル化」に向けこれまで整備を行ってきており、今後もしっかりと取り組んでいく。

また、名古屋駅~豊田市駅間の速達化については、名古屋駅から40分交通圏拡大に向け、目指すべき重要な事項であると認識しており、現在は名鉄本線と名鉄三河線の直通運転に寄与する知立駅付近での連続立体交差事業を鋭意進めている。

さらに、速達化に向けては名鉄三河線の複線化も重要であると考えており、現在は豊田市により若林駅付近において連続立体交差事業が進められているほか、豊田市及び名古屋鉄道において、路線区間内での平面複線化などの検討・協議が行われてきたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点では具体的な議論を先送りせざるを得ない状況にあると聞いているが、リニアインパクトを活かせる公共交通整備に向け、引き続き県としても取り組んでいく。

本県においても、次期「あいち公共交通ビジョン」が今年度内に策定予定である事から、引き続き公共交通の維持・充実に向けて提言してまいります。

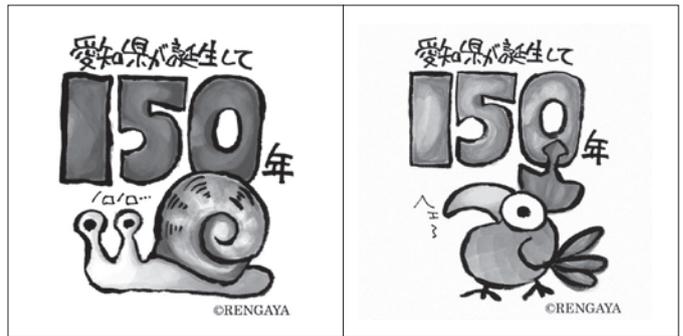


樹神委員

来年、愛知県は県政150周年を迎えます。

1872(明治5)年に現在の愛知県が誕生してから、**来年11月27日をもって150周年を迎える**ことから、県庁内に「**県政150周年記念推進本部**」が設置されるとともに、**周年記念のシンボルとなるロゴマーク(スタジオジブリプロデューサー 鈴木敏夫氏制作)も作成**されました。

今後は150周年が県民の皆様にとって、**郷土への愛着や誇りを醸成する契機となるよう様々な事業が企画**されるとの事ですので、是非ご期待ください。



▲県政150周年ロゴマーク

愛知県の沿革

現在の愛知県は、古くは尾張(木曾川・庄内川地方)、三河(西三河の矢作川地方)、穂(東三河の豊川地方)の3地域に分かれていましたが、その後は尾張・三河の2国となり、江戸時代まで続きました。

明治4(1871)年の廃藩置県の後、12県(名古屋県・西尾県・岡崎県・豊橋県・犬山県・重原県・刈谷県・挙母県・半原県・西端県・田原県・西大平県)が置かれ、同年11月に尾張(知多郡を除く)は名古屋県に、三河と尾張の知多郡は額田県となり、明治5(1872)年4月に名古屋県は愛知県と改められ、同年11月27日に額田県を廃して愛知県の管轄に移し、永く続いた尾張国、三河国は愛知県として統合されました。



主な活動内容 2021.3~6



3月8日 市制70周年記念式典に出席



3月21日 安永川完成式典 & 矢作川(鶴の首)事業着手式に出席



3月24日 国道301号松平トンネル 開通式典に出席



3月27日 豊田上郷スマートインターチェンジ 開通式典に出席



3月28日 松平地区豊田市合併50周年 記念式典に出席



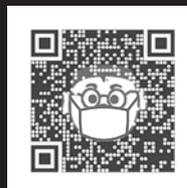
6月3日 あいちテレワーク サポートセンターを視察

『**こたま 義和**』に対するご意見・ご要望をお待ちしております。
また、ホームページにて日頃の活動内容をタイムリーにご紹介させていただきます。是非一度アクセスしてください。

こたま 豊田市

検索

<http://www.kotama.net/>



Facebookでは更に詳細な活動報告をさせていただきますので、是非フォローをお願いします。

